

化した本種が本来の生息域である海岸域から山頂部まで歩行しながら分布を拡げたとは考えにくい。また、成虫では可能性が少ないが、幼虫あるいは卵が、たまたま鳥に付着して移動分散することが可能であれば、海岸から山頂への移動は可能となる。しかし、そういった歩行や便乗の結果であれば、他の島や地域でもこれまで同様な事実が知られているはずだが、そういう記録は今のところ存在しない。

新島の場合、海岸と山頂部で類似した砂地の環境があるため、偶然何らかの要因で本種が運ばれば両環境で生息できる可能性は高い。似たような状況は、伊豆諸島のうち新島と地質や地形が似た、同じ白い流紋岩からなる式根島と神津島でも見られ、台地状の山頂部には砂地環境が存在する。しかし、式根島や神津島ではこれまで調査した限り、本種は海岸域のみに生息する。

伊豆諸島のなかでも新島にのみ生息し、他の伊豆諸島には生息しない動物の一つにニホンジカ（ホンシュウジカ）が挙げられる。人が40年ほど前、近くの無人島（地内島）に持ち込んだものが泳いで新島に渡り繁殖したもので（山本, 2006）、本種は海岸から島の山頂部までを生息域としている。たまたまゾウムシの卵や小型の初齢幼虫がシカの脚や体に砂ごと付着し、海岸から山頂に運ばれたとすれば、海岸砂浜と類似した環境のある新島の山頂部でも、広食性の本種であれば生育可能である。

上述の予備的な分子実験の結果からも両生息地の個体群間での遺伝的分化がほとんど認められなかったことから、本種は比較的近年山頂部へ分散したか、現在も両生息地間での遺伝的交流が行われている可能性があり、伊豆諸島のなかでも新島にのみ生息するシカが本種の分散に関与した可能性が示唆された。しかし、これらのことを検証す

るためには、より進化速度の早い領域での分子系統解析やマイクロサテライト解析などの手法を用いた検討が今後必要となる。

謝辞

本稿を書くにあたりご意見・ご助言を頂いた埼玉県立大学の小林憲生博士にこの場を借りて厚く御礼申し上げる。本調査研究は、日本学術振興会科学研究費補助金（24510333, 15K06937）の助成を受けて行われた。

引用文献

- 片瀬雅彦・清水喜一・八嶺明子・深見理子, 2006. 千葉県圃場内におけるヒョウタンゾウムシ類の越冬状況と越冬後の生息状況. 関東東山病害虫研究会報, (53): 123-128.
- Kojima, H. & H. Agemori, 2012. Curculionid beetles (Coleoptera) newly recorded from Miyake-jima Island, the Izu Islands, Japan. *Elytra*, new series, 2: 164.
- 小島弘昭・川畑喜照, 2014. 伊豆諸島八丈島産ゾウムシ上科甲虫の分布資料. さやばねニューシリーズ, (14): 37-40.
- 森本 桂, 1962. 森林害虫として記録されているゾウムシ類の種名について III. サビヒョウタンゾウムシ属. 林業試験場研究報告, (143): 9-14, 3 pls.
- 森本 桂, 1984. ゾウムシ科, 林 匡夫・木元新作・森本 桂, (編), 原色日本甲虫図鑑 (IV): 269-345, 53-68 pls.
- Morimoto, K. & S. Miyakawa, 1985. Weevil fauna of the Izu Islands, Japan. *Mushi*, (50): 19-85.
- 沢田佳久, 2008. 浜の瓢筆象. 月刊むし, (443): 37-42.
- 沢田佳久, 2010. 海浜性トビイロヒョウタンゾウムシの二島嶼からの発見. 日本生物地理学会会報, 65: 163-167.
- 山本和夫, 2006. 陸上の動物, 新島村 (編) 新島村史 通史編: 103-130.

(2015年8月22日受領, 2015年9月15日受理)

【訂正】「九州におけるナオミヒメコメツキの追加記録」の訂正

筆者は、さやばねニューシリーズ16号44頁(2014年)の「九州におけるナオミヒメコメツキの追加記録」において、ナオミヒメコメツキ *Dalopius naomii* Kishii, 1981を九州2例目として報告したが、堤内(2010)において本種の2例目の記録がすでに掲載されており、筆者の報告は九州からの3例目の記録であった。なお、2例目の採集地も筆者が3例目を報告した場所と同じ大分県黒岳であった。過去の記録の見落としがあったことを深くお詫び申し上げますとともに、本種の記録についてご

教示いただいた堤内雄二氏(大分県)に厚くお礼を申し上げます。

引用文献

- 有本晃一, 2014. 九州におけるナオミヒメコメツキの追加記録. さやばねニューシリーズ, (16): 44.
- 堤内雄二, 2010. 大分県のコメツキムシの記録(2). 二豊のむし, (48): 72-98.

(有本晃一 812-8581 福岡市東区箱崎6-10-1 九州大学大学院生物資源環境科学府昆虫学教室)